

平成21年度選抜種雄牛「波糸福」^{なみいとふく}

畜産試験場

1 取り上げた理由

肉用牛集団育種推進事業による和牛産肉能力検定は、優れた宮城県産の種雄牛を造成し地域の肉用牛の改良を推進するため実施されている。産肉能力検定の結果、宮城県の肉用牛改良委員会で「波糸福」が選抜され、精液配布されることとなったので、その特性を示し普及技術とする。

2 普及技術

1) 和牛産肉能力検定済み種雄牛 「波糸福」



2) 特性等

a 生年月日，産地，血統，特性(優点・欠点)

生年月日	産地	父	母方祖父	母方曾祖父	優 点	欠 点
H14. 8. 23	登米市迫町	茂糸波	安福 165の9	茂重波	資質，体伸，内腿	尻の形，やや均称

b 現場後代検定

	現場後代検定						
	頭数	出荷月齢	枝肉重量 (kg)	ロース芯面積 (cm ²)	バラの厚さ (cm)	BMS No.	A4・5率 (%)
去勢	11	28.5	449.5	65.9	8.3	5.5	45
雌	9	30.0	389.5	61.9	7.7	5.9	50
全体	20	29.1	424.2	64.2	8.1	5.7	47
全 国 ^(注1)	—	—	431.0	53.1	7.5	5.0	—

(注1)：平成21年度広域後代検定平均値

3 利活用の留意点

- 1) 波糸福は資質，体伸，内腿に優れており，ロース芯面積，バラの厚さ，推定歩留の遺伝能力が非常に高い。
- 2) 波糸福の交配対象は，平茂勝やその息牛である勝忠平，安茂勝などを父牛に持つ繁殖雌牛が推奨される。次いで，第1花国，北国7の8等を父牛に持つ繁殖雌牛への交配が推奨される。
- 3) 茂糸波を父牛に持つ繁殖雌牛との交配は近交係数が10%以上となるので，避けた方がよい。

(問い合わせ先：畜産試験場酪農肉牛部 電話0229-72-3101)

4 背景となった主要な試験研究

- 1) 研究課題名及び研究期間 肉用種雄牛の検定 昭和55年～
- 2) 参考データ
 - a 和牛産肉能力直接検定成績

1日平均 増体重	365日 補正体重	T D N 要求率	粗飼料 摂取率
1.33kg	451.3kg	3.89	41%

b 「波糸福」の標準化育種価（SBV）※

平成22年11月分析 宮城県和牛育種価報告より算出

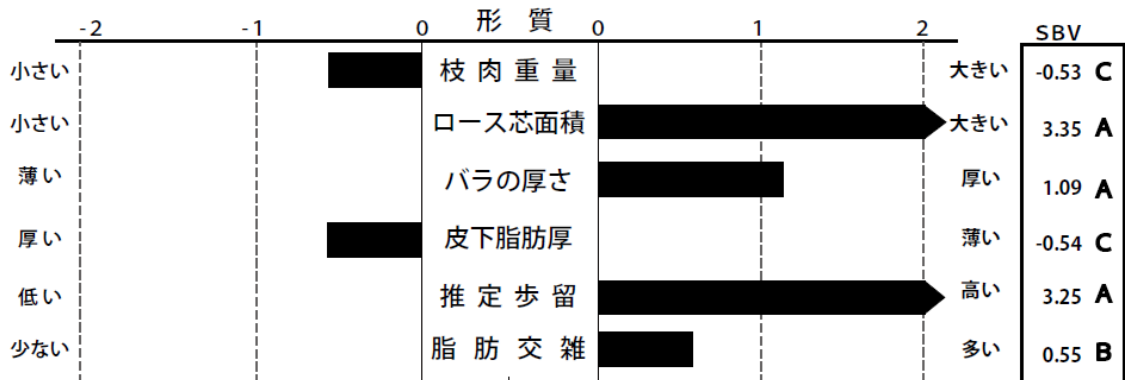


図1：波糸福の標準化育種価※

※：標準化育種価（SBV）について

- ・上記6形質について，県内繁殖雌牛の平均値を0として種雄牛の持つ遺伝能力（育種価）を次式によって標準化したもの。2～-2は標準偏差（σ）単位

$$SBV = (\text{当該種雄牛の育種価} - \text{県内繁殖雌牛の育種価平均}) / \text{県内繁殖雌牛の育種価}$$

- ・標準化育種価の値が大きいほど好ましく，その大きさを個体の持つ能力・特徴を表すことができる。
- ・一般的に1を超える場合，その能力を強く有するものとみることができる。

※：育種価「A～C」評価について

- ・各形質において，上位1/4以上の範囲に入る育種価を持つ個体を「A」，上位1/4未満，平均以上の育種価を持つ個体を「B」，平均未満の育種価を持つ個体を「C」として表示。

3) 発表論文等

なし